

会議の名称	令和 6 年度第 2 回加東市総合教育会議
開催日時	令和 7 年 1 月 2 1 日（火）午後 2 時から午後 3 時 5 0 分まで
開催場所	加東市役所 3 階 3 0 1 ・ 3 0 2 会議室
出席及び欠席委員の氏名	
＜出席委員＞ ・市長 岩根正 ・教育長 藤原路寛 ・教育委員 田中寿一、後藤純子、岸本恵一、別惣裕美子	
＜欠席委員＞ なし	
＜特別講師＞ ・兵庫教育大学教授 森田 啓之	
説明のため出席した者の職氏名	
なし	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
・副市長 小林勝成 ・こども未来部長 田中孝明 ・教育総務課長 西山英希 ・中央図書館長 田中美紀子 ・こども教育課長 下岡正裕 ・教育総務課副課長 堅田美佳 ・学校教育課副課長 郡 龍仁 ・まちづくり政策部長 三木秀仁 ・企画政策課副課長 村上計太 ・企画政策課主事 畑谷拓哉 ・教育振興部長 鈴木敏久 ・こども未来部参事兼学校教育課長 井上裕子 ・生涯学習課長 岸本孝司 ・小中一貫教育推進室長 丸山真矢 ・発達サポートセンター所長 友藤由貴子 ・学校給食センター所長 芹生祥子 ・学校教育課係長 石井真史 ・企画政策課長 岸本純子 ・企画政策課主査 仲井智紀	
1 議題	
(1) 特別講演「地域展開（地域移行改め）」と新たな地域クラブ活動…資料 1 (2) 加東市の部活動の地域移行について…資料 2 (3) その他	
2 会議の結果及び経過	
⇒別紙「令和 6 年度第 2 回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過」のとおり	

(別紙) 令和 6 年度第 2 回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過

発言者	会 議 の 結 果 及 び 経 過 / 発 言 内 容
司会 講師 司会 市長 講師	1 開会 2 市長あいさつ 3 特別講演 部活動の「地域展開（地域移行改め）」と新たな地域クラブ活動 4 協議 (1) 加東市の部活動の地域移行について 本日は、講演をお聞きいただいた後に、協議を行います。まずは講演を宜しくお願いたします。 資料 1 に基づき講演 講演に関する質疑及び加東市の部活動の地域移行に関するご意見などありますでしょうか。 都心部では様々なクラブチームやそれに相当する団体があります。ところが、加東市のような地方では極めて少ないです。受け皿が少ない中でどうすれば良いのか。教員の働き方改革が目的であれば、資料 1 の 25 ページ、緑塗りのように、部活動指導員を増やし、教員の負担を軽減すれば良い。ところが、地域の受け入れ団体を見つけて、そこに子どもが通うとなると、団体の受け入れ可能人数、移動、費用など様々な課題を伴います。それらを全て解決して実現することは、本当に可能なのか。 部活動が学校教育の一環でなくなると、要するに今の小学校と同じということになる。個人で好きなスポーツクラブや習い事をしています。小学生には特段支援をしていないにもかかわらず、中学生は部活動から地域に移行するからと言って支援を行うことには矛盾があるのではないかと。支援をしたくないということでは全くなく、地域移行の考え方や根拠、財政的なこと等が文部科学省から明示されていないことに疑問を感じます。 資料 1 の 25 ページ、緑塗りに移行するということであれば分かります。ですが、いきなり黄塗りに移行するとなると分からなくなるので、補足の説明をお願いしたいです。 教育委員会あるいは市が責任を持つという覚悟があれば、緑塗りで良いと個人的には思います。学校教育としてやるという保護者の意識がある限り、地域の方が顧問をしていたとしても、学校が全て引き受けることになります。その覚悟があればということです。 例えば、アメリカでは、活動の場所は学校ですが、教員とは全く別の統括部を作って、マネジメントをするという仕組みの学校があります。ポイントはそこだと思います。 かなり急な話だとは思いますが、この問題に関しては徐々にやっていっても、意識は変わらないと国は判断したのだと思います。活動の頻度もそうですが、例えば、シーズン制にしているような部活動を経験できるようにする、勝ち負けを競って全国大会を目指すのではなく、楽しむことに価値を置くなど、いろんなやり方があると思います。これまで部活動中心で学校が回ってきたところから、意識を大きく変えて、部活動の在り方も変わっていく必要があるのだと思います。

教育長	学習指導要領に関して、今後部活動の地域展開に関する記述はされると予想しますか。
講師	おそらく部活動の記述は、次の学習指導要領でも何らかの形で残ると思います。ですが学校教育の一環という言い方はせずに、子どもにとって必要な部活動や地域クラブはこういう感じにやるといった書きぶりになるだろうと予想します。
教育長	学校の部活動であれば、勝利至上主義の側面が強いと思います。一方、地域のクラブになると、サークル的に活動したい子ども、勝ちにこだわりたい子どもなど様々集まると思います。そうした点での難しさや課題は、先進校の事例から分かりますか。
講師	例えば、掛川市では、サッカーの地域クラブが複数あって、それぞれ違ったレベル設定をして活動しています。その中から子どもは選択することになるので、ある意味、どんな活動を、どういう頻度で、どんな指導者がといったところをきちんと公表することは大切になると思います。
教育長	加東市においては、合同チームや拠点校を作って活動する場合があります。そうしたときに保護者の送迎が必要になり、保護者の都合で部活動の参加しない子どもも出てくるのではないかと危惧しています。
講師	先進市でも、送迎についてはやはり保護者が行っています。多くの保護者がそうした関わり方をする一方で、どうしてもできない家庭もあります。本当にサポートが必要なところはどこなのか、どんなサービスが必要なのかを見極める必要はあると思います。費用の面でも、現状の部活動であっても結構な部費が発生しています。吹奏楽部では毎月2,000円から3,000円程度、移動費とは別にお金がかかるとも聞きます。そうしたことも含めて考えていく必要があると思います。 方向性が決まれば、やるべきことが見えてくるので、方向性をはっきりさせると良いと思います。
委員	現状では、高校の全国大会に出るような子どもは、中学校の部活動出身者はほとんどいません。クラブの下部組織で練習を重ねた子どもがほとんどです。その意味で、クラブの下部組織と学校の部活動で二極化されているので、それを踏まえて地域でどんな組織を作らないといけないのかを考える必要があると思います。 個人的には、新たな取り組みをするには新たな組織で行うことが原則だと考えます。今ある組織を活用すると、必ず後戻りをする。学校から切り離した組織を作るにあたって、トライやるウィークが良い事例になると思います。地域の中で受けていただく団体や個人を募集、選別して組み立てていくことを毎年のように繰り返すことで組織が育つのだと思います。例えば、部活動支援センターのようなものを作って取り組んでいくことも一つの方法だと思います。 加東市には、兵庫教育大学があります。兵庫教育大学のクラブ活動と連携できる部分を探っていただき、加東市の特性を活かした取り組みにしていきたいと思います。
市長	地域のクラブに中学生が参加したときに、例えば、これまで小学生中心に組んでいた練習メニューを大きく変えないといけないといった問題も生じる。 先ほども申し上げたが、国は学校教育で無くすと言いながらも、生涯学習の中で考えてくれみたいな話になっていて、つじつまが合わないところに疑問を感じています。

講師	国はやはり青少年の文化スポーツ活動は必須だと考えているのだろう。そこで何とか、これまでとは違った形で保障をしてほしいと。様々なスポーツで登録者が激減することは覚悟していますが、なんとかいろいろな形で継続してほしいと思っていますと想像します。ただ、全く強制したり、縛ったりするものではないです。だからこそ、神戸市は部活動を辞めると宣言しています。そこは各自治体の判断になります。
市長	全国ほとんどの市町で受け皿がなく、都市部にしかない状況があると思います。そんな中で地域に移行するとなれば、受け皿を作らざるを得なくなります。それは相当に大変なことです。
講師	受け皿がなくてどうしようもないということなら、子どもに謝るしかないでしょう。そのくらいの市民力、地域力なのだと。ただ、これをビジネスチャンスと捉える人がいたり、既存の組織に所属はしていないが、関わってみたいと思う人がいたり、新しい形に不安はあれど、そこに向かっていくことが大事だと思います。
委員	私も市長のおっしゃると通りだと思っています。ただ、国はおそらく期限が来れば、ポンと離されてしまいます。結局そうなって困るのは、子どもや保護者です。やはりその時の準備はしっかりしておかないといけないと思います。
講師	具体の事例として、学校の先生が有志で、学校とは関係はないクラブを作ろうとしているところもあります。議論はあるでしょうが、子どもたちにとっては、絶対にありがたいことです。教育委員会と市長部局と上手にすり合わせをして、そのようなクラブが出来上がることも大事だと思います。
教育長	その場合は教員の兼職ということになると思います。それはボランティアでされているのですか。それとも報酬が支払われているのですか。
講師	報酬が支払われています。もちろん、教育公務員として本業に支障のない範囲でという条件はあります。
教育長	それは部活動の4号業務ではなく、部活動指導員のような位置づけで、報酬が支払われているのですか。
講師	そうです。
委員	指導者として子どもたちを指導しようと思うと、資格が必要になったり、講習会に行かないといけなかったりする。そうしたことをサポートする体制も必要だと思います。
委員	中学生の保護者数人から話を聞きました。送迎が必須になると平日は難しく、土日も両方というのは難しい。吹奏楽部など、学校の道具を使えないとやらせてあげられない部活もあるという話がありました。これまで学校の部活動におんぶに抱っこでやってきた面はあると思いますが、保護者としては、それが急に変わってしまうことに不安を感じていると思います。
事務局	地域の方の理解が得られないと、なかなか進まないと思っています。まずは丁寧な説明をする。今の子どもたちが困らないような形を継続しながらも、新しい形を作り上げていくために、段階的に進めていくことが大事だと考えています。

講師	今までの部活動のイメージを引きずってでは、絶対に物事は進みません。全く違うんだという考え方で、新しい可能性を前向きに見ていかないと難しいと思います。
委員	講演を聞いて、部活動指導員が学校で指導することまでは考えられたのですが、地域のクラブになると、受け皿に限界があると思いました。ただ、これまでも部活動に入らない子は、野球なりゴルフなり、地域のクラブで活動しているので、必ず学校の部活動に参加するのではなく、地域のクラブを含めて自由に選択していいという意識をまず広めていくことが必要だと思いました。
委員	今まで子どもの部活動に関わってきて、保護者の思いが結構影響していると感じる場面がありました。部活動の地域展開がなされたときに、送迎一つとっても、何とか仕事を調整して頑張ってサポートしたいと思う熱心な親もいれば、それならもうやらなくていいんじゃないと思う親もいるでしょう。保護者の思いに左右されて不平等な状況で子どもが悲しまないかということを心配します。 勝ち負けにこだわるというのは、学校の伝統や、これまでの実績が影響している面もあると思います。勝ち負けへの思いが強すぎると、今の部活動の形を変えることは難しくなると思います。講演の中でダンスの話がありましたが、カッコいいとか、楽しいとか、色んな価値観を持つことが大切だと思いました。
事務局	以前、今後やりたい部活動についてアンケートを取った際に、ダンスやeスポーツなど、これまでの部活動とは違ったニーズもありました。子どもが本当にやりたいスポーツや文化芸術活動とはどのようなものか、ニーズを把握しながら、地域と調整していくことが大切だと感じています。
教育長	国や県は進めるという方針を出していますので、加東市も現状や課題を十分調査し、地域の実情を踏まえて進めていかないといけない。財源のこともあるので、当然市長部局とは十分連携を取りながら進めていきたいと思っています。 最優先することは、子どもたちの活動の場を少しでも多く確保することです。そのために、まずは部活動指導員の確保に全力を挙げて取り組みます。来年度中に、部活動改革推進計画を作成しないといけないので、先ほど委員の話にもありました、部活動支援センターまではいかなくても、専門部署やコーディネーター的な立場の者が今後必要になると考えます。学校などと協議し、見通しが立ったタイミングで、希望する職員のみが活動に参加する体制づくりをしていきたいと思っています。課題は山積みですが、何とか前向きに考えていきたいと思っています。
司会	(2) その他 その他、部活動の地域移行に関すること以外で、ご意見はありますか。 特に意見なし
	5 閉会